

お子さんやお孫さんに
ワクチンを勧める前に

「新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症を予防する高い効果があり、また、感染や重症化を予防する効果も確認されています。時間の経過とともに感染予防効果や発症予防効果が徐々に低下する可能性はありますが、重症化予防効果は比較的高く保たれていると報告されています。」(厚生労働省HPより)

上記のようにすでにワクチンは一定の役割を果たしたと言えるだろう。しかし子どもたちへの接種については慎重さも必要かもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は多い。ここでは厚生労働省のホームページから、接種前に知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

ワクチン、予防接種とは

予防接種とは、感染症の原因となる病原体に対する免疫ができる体の仕組みを使って、病気に対する免疫をつけたり、免疫を強くするために、ワクチンを接種することをいいます。

一般に、感染症にかかると、原因となる病原体(ウイルスや細菌など)に対する「免疫」(抵抗力)ができます。免疫ができることで、その感染症に再びかかりにくくなったり、かかっても症状が軽くなったりするようになります。

※厚生労働省HPより

厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後
重篤者387人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者(0歳~20歳未満)がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか? 厚労省の資料(図①)によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまでに4人いるが、その内の3人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人は「コロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死扱いになったものだ」と東京都発表。つまり、これまで「コロナ感染で死亡した健康な未成年者はおらず、重症化もほとんどない」といえる。(令和4年1月21日時点)

一方でオミクロン株も含め新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもにも重篤化や後遺症の可能性が」と警告している。実際に感染してもほとんどが無症状か軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省などのデータから読み取れる。

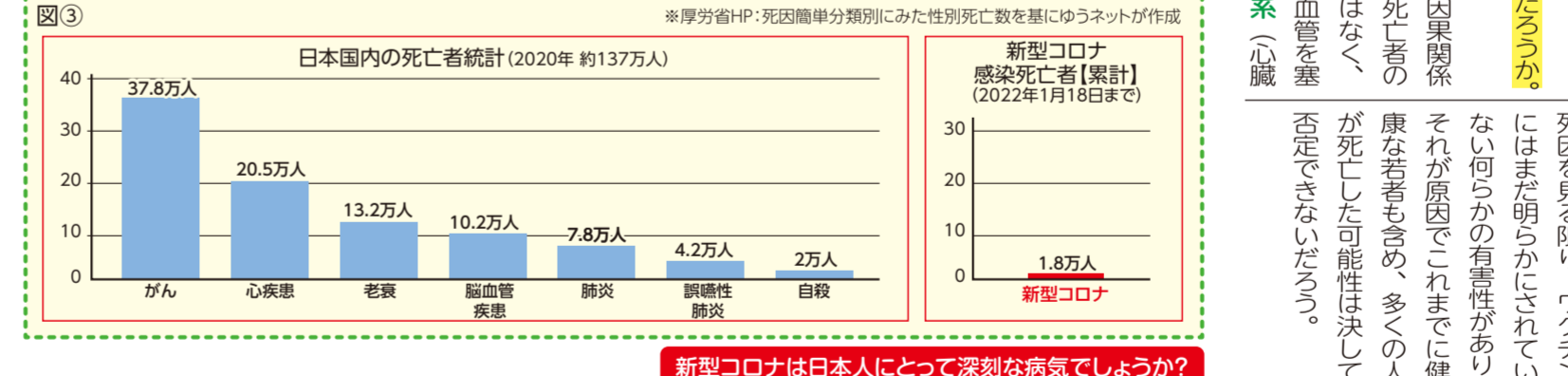
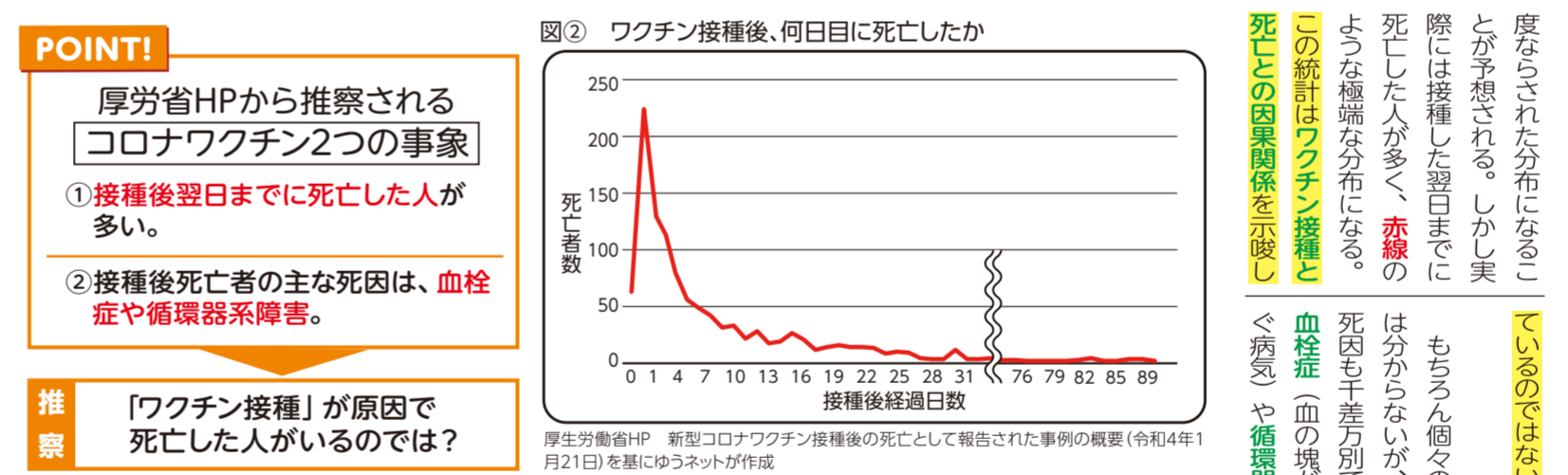
ところが未成年者がワクチンを打つことによって、多くの重篤者(命の危険が切迫している患者のこと)や死亡者が出てしまっている。昨年10月30日には13歳の少年が新型コロナワクチンを接種した4時間後に入浴・浴槽内で水没しているところを発見されている。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに1606人(1人)に上り、そのうち重篤者は387人、後遺症8人、死亡者は5人に上っている。すでに本末転倒な状況だ。

この状況を招いた要因のひとつは、国や自治体が躍りになって広めた「周りの人のために接種すべき」というスローガンではないだろうか。「思いやりワクチン」「親孝行ワクチン」「大切な人を守るために」等のCMをよく目にした。この接種推進CMによって、たとえ自身に必要なくても、子どもや若者も「家族や会社や社会のために接種すべき」という考え方が広がり、同調圧力が生まれてしまった。

しかしその目的のために、子どもや若者達に「自分の命や健康を賭かせる」という自覚がそもそも非常識ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪市立大学の井上正康名誉教授(分子病態学)から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡者の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、1月14日時点で1444人に達している。しかしワクチン接種会場で突然死亡した場合も含めて、厚労省は一人として因果関係を認めない。

つまり、厚労省のホームページに明記されている通り「現時点で、新型コロナワクチンの接種が原因で多くの方が亡くなった」といっている。これは「ありせん」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたまほかの病気で亡くなったことになる。



厚労省はホームページに「ワクチンが直接的に不正性器出血(不正出血)や月経不順を起こすことはありません。」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の変化などの症状だけでなく、閉経した生理が再開したという副反応まで報告されている。日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が出てきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起こっている。

その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、一部臨床試験の実験結果、だからだ。それは人体への長期的な影響が誰にも予測できないことを意味する。

厚労省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である。」と記載している。ワクチンの安全性を

確認する手続きを特別承認で省略したため、厚労省も今後数年にわたって何が起ころうか分からないまま接種を推し進めているのが現状だ。

また、ワクチンが生産機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。製薬会社が厚労省に提出している「薬物動態試験の概要文」には、ワクチンの成分が卵巣や精巣(卵巣や精巣)にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「新型コロナ

ナワクチンも含め、これまでに日本で使用されたどのワクチンも、不妊の原因になるといって科学的な根拠は報告されていません。」と書かれている。

これについて前出の井上正康名誉教授は「コロナワクチン接種は始まったばかりであり、不妊の根拠が報告されるとしたら、これから数年、数十年後のことである。何らかの異常や有害事象が起る可能性は否定できない。臨床試験中の美

※この内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や各種報道による情報を基にしています。

わが子を守れるのは、あなただけ

厚労省ホームページから「未成年接種」を考えました。詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。右2次元バーコードからもご覧頂けます。▶▶▶

累計寄付金額 249,408,026円 (2021年11月30日~2022年3月15日(火)19時00分時点)

ゆうネット 意見広告 検索

https://jccovid.net/

メールまたは上記2次元バーコードよりご意見をお寄せください

ご意見・ご感想をお聞かせください。メール mail@dbank.jp